



第44号
国立市東1-1-19-302
山口康雄 574-5581
印刷：クリアイメージ



第三十三回総会をむかえて

支部長 山口康雄

会員の皆さんの積極的な参加とご協力のおかげで、我が中央大学学員会国立支部は本年度で三十二年目を迎えます。

二か月に一回、役員会を開催して行事の細部にわたる打ち合わせを行い、数多くの活動を行ってまいりました。毎回、会合の後、懇親会を開いて近況報告やら、趣味の話、景気や政治について語り合います。

できれば、会員の皆さんにも出席して頂き、ともに語り合いたいと思いません。

そして今年も国立支部が学員会三多摩地区連絡協議会の当番支部になります。協議会の目的は各支部の連携親睦を密にするとともに、私たちの

地元が存在する中央大学を全国の支部の先頭をきって支援して行こうとの意気で設立したものであります。設立時の先輩諸氏の思いを引き継ぐ上でも当番支部の責任をはたしたいと思えます。行事としては、総会の開催と年一回のゴルフコンペの開催です。皆さんにはお世話になりますがご協力のほど、よろしくお願いいたします。

我が支部はウオーキングが盛んで、毎年体育の日に開催されます国立ウオーキングには多数の会員が参加しております。また、先般は多摩川河口までの五十キロ徒歩なども実施いたしました。句会や囲碁も行われています。

本年の学術講演会は十一月二十一日「せきやビル」において、宮丸裕一先生の「笑いと世代間格差」という演題で開催されます。

いろいろ、お願いしましたが会員の皆さんのご協力とご参加をお待ちしています。

三十周年記念 総会開催

平成二十一年度総会は六月二十一日(日)午後二時より国立駅前「せきやビル」において開催された。大学から権橋副学長、玉造常任理事、林秘書課長、学員会本部から中西副会長、また立川支部 柏木支部長をはじめ、近隣支部支部長のご臨席を得て、記念すべき総会が開催された。提出された議案は全て満場一致で承認された。

昭和五十三年五月に発足した当支部は三十年の輝かしい歴史を刻んだが、その記念誌「はばたきⅢ」が刊行され、総会出席者に配布された。

新年会 新趣向で盛会に

平成二十二年新年会は、一月二十三日(土)午後二時から駅前せきやビル七階エソラホールにおいて開催された。

新企画として、会員・家族の他友人・知人にも参加を募り、六五名の参加者を数えた。またアトラクションとして招聘した地元のバイオリン奏者高橋卓

也氏の名演奏もあり、予定時間をオーバーするほどの盛況であった。我が支部は発足時から「市民祭」「さくらフェスティバル」等に参加して「国立白門会」として知られ、また会員には各種ボランティア活動、ラジオ体操・山歩き・コーラスなどのサークル活動で活躍されている方も多く、その仲間の皆さんにも参加していただきました。



さくらフェスティバルに参加

恒例の「磯辺焼き」早々と完売



募金状況 (2010.4.30 現在)

募金目標金額 100 億円
現申込金額 56 億 3015 万円
多摩地区募金申込状況

| | | | |
|-------|------------|------|-----------|
| 日野支部 | 11,957,285 | 三鷹支部 | 3,779,578 |
| 国立支部 | 8,511,000 | 小平支部 | 3,697,000 |
| 八王子支部 | 5,860,000 | 府中支部 | 2,881,300 |
| 立川支部 | 4,035,000 | 多摩支部 | 2,764,550 |
| 調布支部 | 4,020,500 | 町田支部 | 2,085,000 |
| 小金井支部 | 3,890,000 | | |



五十年來の再会

昭和二十三年卒業 齋藤 寛

昨年五月十一日、私は山口県の友人を訪ねるべく雨谷氏と二人で「秋吉台」へ向かった。その友とは昭和二十九年に入学以来五十年ぶりの再会なのである。二人共に同じ志しを持って上京し四年間を「ボクシング部」という強い絆で結ばれ同じ釜の飯を食い、厳しい練習に耐え、時には落ち込む友がいれば励まし、そして喜びは共に喜び青春時代の一番の思い出を過ごしたのである。

羽田から広島空港到着後、観光バスで錦帯橋（岩国市）、津和野市（島根県）など各名所を廻り萩で一泊。翌十二日早朝、本間高士氏が家族と共にホテルで出迎えてくれた。五十年ぶりで会った彼は杖を持つての姿だった。最初に案内してくれたのは吉田松陰歴史館だった。その後、車で二時間ほど走ると国定公園「秋吉台」に到着（今年秋吉台開洞一〇〇周年とのことである）。ここからはガイド付きで東洋屈指の大鍾乳洞「秋吉洞」地下百メートルへ。冷気漂う洞内は肌寒ささえ感じた。その洞内のコース約一キロメートルを見て廻り洞外へ。それからは本間氏の車で長門市湯本温泉「大谷山荘」で彼の家族と一緒に豪華料理のおもてなしを受けた。五十年もの空白の時間をわずかに

時間余りで埋めるにはあまりにも短すぎ、あつという間に時間が過ぎて行った。散会後は二人で同ホテル（各界の大物が利用するという）に一泊し翌日新幹線で帰京。今回の旅行で友達に「有形無形の財産」である事に改めて感謝をし、五十年前の約束を果たした事に安堵した。

*補足ですが秋吉台の発掘者が本間高士氏の祖父である本間俊平翁であったという事に大変驚いた。



吉田松陰 生誕地歴史館前
左より本間高士・齋藤・雨谷の
中大ボクシング部各OB
山口県萩市にて

平成二十一年五月十一日

インド紀行

ひろさちや先生と行く

お釈迦様最後の旅

平成二十一年十二月九日〜十七日

二宮 巍

—インドを旅して—

今回行った場所はインドでも極一部の地域で、北部インドでガンジス川周辺部でしかありません。ムンバイだとか、カルカッタ或いは南部地域では、また別の光景がみられるかも知れませんが、とにかく今回私が見聞きした範囲内で見聞記を書いてみました。初めてインドに行きました。昨年シルクロードを旅した時と比べて印象を綴ってみる。今年の旅は平成十九年の西安・敦煌、平成二十年のシルクロード、平成二十一年のインドと、仏教伝来一玄奘三蔵の歩いた道、旅の集大成でもある。（ただし、パキスタン・アフガニスタン、のカイバル峠越えの道だけは、現在治安が悪く危険が多いので通行出来ないので行っていません。）

現在中国の経済発展は目を見張るようなものがあり、今年中にはGNPで日本を抜いて世界第二位になると云われています。とにかく中国の人口は十三億とも十四億とも云われており、面積は

959万平方kmあります。

私の見たところでは、現在の中国の生活程度は日本に比べれば、日本を100とすれば80程度です。それに比べるとインドは人口で十一億人、面積にして328万平方kmで、現在の生活程度で云えば日本の60程度だと思つてよい。

何しろ日本の十一倍もの面積だから、首都のニューデリーでも高い建物（3・4階以上）がない、高速道路もない、地下鉄もないのです。いわば日本の昭和三十年代を思い起こせば良いと思います。

ニューデリーからパトナへ飛んでパトナからラージギルまでバスで三時間程の距離であるが、道路がまだ未整備の状態です。殆ど高速道路が無く、1車線の一般道路を人・自転車・トラクター・トラック・バスが走ると云つた具合です。とにかくプッププップと警笛を鳴らしっぱなしの状態です。それと同時に今インドでも経済発展の途中であり自動車が増えてきている。だからラッシュ時には交通渋滞がおきてしまう。ちようど日本の昭和三十年代を思い出してみて頂きたい。ちようどオリンピックを前にして、高速道路や新幹線が整備され、公園住宅が建てられた、あのような状況である。走っていて気がついたこと

は、大きな工場と云うと「レンガ工場」が目につく。確かにインドの家は殆どがレンガで造られている。それにちよつと横町に入ると道はレンガで敷き詰められていて、それだけレンガの需要が多いのだと感じさせられた。走っていて五つ六つのレンガ工場が目につく。それ以外の工場はない。夕暮れになってきて、所々集落を通過するが、まだ電灯がついていない家があることである。まだ裸足で歩いている人もいます。

インドは人口の八〇％はヒンズー教徒。十二％がイスラム教徒、五％がシーク教徒や仏教徒、その他と云つた構成になっており、大部分がヒンズー教徒で占められている。

ヒンズー教徒の場合、カースト制度と云うものがある。即ちバラモン（僧）・クシャトリア（王侯武士）・バイシャ（平民）・シュードラ（奴隷）の四階層が厳然と存在し、一九四七年の独立後の身分制度の解消に努めている。そうだが、未だに残っているようだ。

翌日、ホテルの前や「霊鷲山」に登る参道などに「プアー」と云う乞食が大勢いるのにはびっくりさせられた。これらの人々は各地の観光地で必ず見受けられる光景であった。（次頁に続く）

大人も子供もいる。子供は我々の傍に寄ってきて一〇ルピー・ボールペンとねだるのです。(添乗員から禁止されているので誰も何もあげない)

ちように戦後の日本の子供達が米軍のジープを追いかけてギブミーチョコレート・ギブミーキャンデーと云っていた光景に似ている。そう云う最下層の人々が依然として存在することには驚かされる。パトナで出くわしたのだが、大統領の一行が通ると云うので三〇分以上にわたって交通止めに遭い、待たされたことも印象に残る出来事だった。

とにかく、ラージギルの霊鷲山・竹林精舎・バイシャリーのナランダ大跡、クシナガラの子孫最後の説法の場所・お亡くなりになった涅槃堂、と二五〇〇年前にお釈迦様が歩いた最後の道歩いてみました。

中国と云い、インドと云い十三億・十一億の人口を持つ国々の経済発展のパワーに物凄い勢いを感じた。

その意味では、これらの国に我が国をはじめ、極東・東南アジアの諸国を加えた「アジア」を抜きに考えることは出来なくなってきた。間違いない「アジアの時代」が始まっていると云つても過言ではありません。

多摩川河口まで

ウオーキング

「たまりバー 50キロ」
四回にわけ完歩

国立市の南端を流れる多摩川は、全長138キロに及ぶが、羽村取水堰から河口まで53キロの左岸には近年遊歩道や旅程標などが整備され、これに「たまりバー50キロ」と銘打ち憩いの場になっている。

「多摩川が昔のようにきれいになった」という声をよく聞くが、国土交通省や関係市町村などが、青少年を中心とする市民団体と共同して続けてきた「クリーン多摩川大作戦」が功を奏したものと見えよう。

この多摩川河川敷清掃運動には国立白門会も春秋の清掃会に毎回10名前後の会員を派遣し、協力している。

この運動の延長線上で、昨年夏の「多摩川源流を訪ねる旅」に続き、今年「たまりバー50キロ」にウオーキングで挑戦し、2月から5月まで4回に分けて多摩川堤を歩き、このほど完歩した。

このウオーキングには、会員以外も含め毎回10名以上の参加があったが(うち女性2名が全コース完歩)、当云の参加者は以下の通り(順不同・敬称略)「藤村俊夫・二宮 隼・石井孝・北井治徳・斎藤孝之(以上完歩者) 丸本大・沼崎末治

第一回は午前十時JR羽村駅に集合し約1キロ先の多摩川堤まで歩き、『ゼロメートル基点』

| | | |
|-----|----------|------|
| 第一回 | 二月十日(水) | 16キロ |
| 第二回 | 三月十日(水) | 16キロ |
| 第三回 | 四月十四日(水) | 10キロ |
| 第四回 | 五月七日(金) | 10キロ |

(河口から53キロ)からスタートしたが、2回目以降は前回最終地点に戻り、そこからスタートする形とした。第4回は最終コース、多摩川河口の大田区大師橋緑地付近の53キロ基点到達をもって完歩したが、そのあと更に2キロ先の「川崎大師」に向き、全員無事に完歩できたお礼参りを行った。

毎回JR駅から多摩川堤まで歩いて往復するのでこれらの徒歩区間を加えれば、総歩行距離は60キロを優に越えている。

福生市内の河川敷には珍しくうっそうとした林があり、堤防を下りて行ってみるとブルーテントが木の間に隠れて見えた。木々を縫って場違いと思われる真っ赤な絨毯のアプローチがあり、そこを歩いてると突然番犬(？)に吠えられ、出てきた住人に断りを入れて、そそくさと退散する羽目になった。ハウスの中はうかがい知れないが、どこからか水道や電気も引張ってきて文化的な生活が営まれているようで、なかば羨ましくもあった。

毎回予定距離を歩き終えると、近くの蕎麦屋か食堂で喉を潤しながらの「打ち上げ・反省会」となるが、ある時、軽くビール・酒など飲んだあと立ち上がった某氏が、急に変調を来し救急車で病院に運ばれる一幕もあった。幸い大事に至らず事なきを得たが、たかが10キロほどのウオーキングでも体調管理はあなどれないと、本人はもとより参加者全員が「反省」した次第である。

多摩川を地図で見ると、羽村から南東に向けほぼ直線に近く東京湾に流れ込む。昔の暴れ川とは違い、流れ自体にそれほど変化があるわけではないが、地域により周辺の景観や、多摩の横山、川崎市向か丘などを遠景にみた眺めは素晴らしく、あらためてその美しさを見直すことにもなった。

(北井治徳 記)



三多摩地区連絡協議会 第一回囲碁大会開催される

二十一年度の当番支部であります立川支部の企画により開催されました。我が支部からは石井・二宮・関・丸本・山本・平本の六名が参加いたしました。



中央大学学術講演会

中央大学創立125周年記念
演題 笑い世代間格差
講師 中央大学法学部准教授 宮丸 裕一
日時 平成二十一年十一月二十一日(日) 午後三時 開演
会場 駅前せきやビル(西友)七階
主催 中央大学
共催 中央大学学員会国立支部
後援 国立市教育委員会
連絡先 石井 090-4005-1223

平成21年度 国立白門会決算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| 科目 | 決算 | 予算 | 科目 | 決算 | 予算 |
| 前年度繰越金 | 330,960 | 330,960 | 記念誌等印刷費 | 351,750 | 600,000 |
| 年会費 | 210,000 | 240,000 | 総会費 | 301,748 | 150,000 |
| 総会費 | 152,000 | 150,000 | 交際費 | 114,000 | 150,000 |
| 寄付、祝金 | 123,000 | | 親睦行事費 | 109,047 | 150,000 |
| 行事活動特別収入 | 120,459 | 80,000 | 通信費 | 100,505 | 70,000 |
| 周年事業特別収入 | 500,000 | 500,000 | 会議費 | 17,850 | 30,000 |
| | | | 事務用品費 | 17,077 | 30,000 |
| | | | 雑費 | 46,940 | 10,000 |
| 雑収入 | 84 | | | | |
| | | | 予備費 | | 110,960 |
| | | | 次年度繰越金 | 377,586 | |
| 合計 | 1,436,503 | 1,300,960 | 合計 | 1,436,503 | 1,300,960 |

平成22年5月26日

会計 真見 敬 印
 会計監事 二宮 巍 印

平成22年度 国立白門会予算案

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|--------|----------|---------|-------|----------|---------|
| 科目 | 摘要 | 金額 | 科目 | 摘要 | 金額 |
| 年会費 | 3000円×80 | 240,000 | 印刷費 | 白門会ニュース | 100,000 |
| 総会費 | 5000円×30 | 150,000 | 総会費 | | 200,000 |
| 特別収入 | さくら祭、市民祭 | 80,000 | 交際費 | 近隣支部総会祝金 | 150,000 |
| | | | 親睦行事費 | 納涼会・新年会他 | 100,000 |
| 前年度繰越金 | | 377,586 | 通信費 | 会員連絡他 | 100,000 |
| | | | 会議費 | 役員会他 | 30,000 |
| | | | 事務用品費 | | 30,000 |
| | | | 雑費 | | 10,000 |
| | | | 予備費 | | 127,586 |
| 合計 | | 847,586 | 合計 | | 847,586 |

| 平成21年度活動報告 21・4・1～22・3・31 | 平成22年度活動計画案 22・4・1～23・3・31 |
|--|---|
| * 4/ 5 (日) 「さくらフェスティバル」に参加 | * 4/ 4 (日) 「さくらフェスティバル」に参加 |
| * 6/21 (日) 第32回定時総会(せきやホール) | * 4/17 (土) 三多摩連協会事務引継 |
| * 7/ 1 (水) 句会発足 市橋千翔先生の教室 | * 6/13 (日) 第33回定時総会(せきやホール) |
| * 7/20 (月) (海の日)納涼会(国立ノイ・フランク) | * 7/19 (月) (海の日)納涼会(昭和記念公園) |
| * 9/ 9 (水) ボーリング会 | * 8/24 (火) 三多摩連協会 役員会 |
| * 9/20 (日) 囲碁会(竹田女流棋士を迎えて) | * 9/12 (日) 囲碁会 |
| * 10/12 (月) (体育の日)くにたちウオーキング | * 10/11 (月) (体育の日)くにたちウオーキング |
| * 10/25 (日) 中大ホームカミングデー | * 10/未定 三多摩連協会ゴルフコンペ |
| * 10/27 (火) 三多摩連協会ゴルフコンペ | * 11/ 7 (日) 「くにたち市民まつり」に参加 |
| * 11/ 3 (火) 「くにたち市民まつり」に参加 | * 11/10 (水)～11(木) 秋の一泊旅行 |
| * 11/15 (日) 中央大学学術講演会 | * 11/13 (土) 創立125周年記念式典 |
| * 11/15 (日) 秋のクリーン多摩川 | * 11/21 (日) 中央大学学術講演会(せきやホール) 演題「笑いと世代間格差」 |
| * 1/18 (月) 三多摩連協会 総会・新年会 | * 11/21 (日) 秋のクリーン多摩川 |
| * 1/23 (土) 新年会(せきやホール)55名参加 | * 11/未定 ゴルフコンペ |
| * 2/14 (日) 囲碁会(立川支部と交流会) | * 1/17 (月) 三多摩連協会 第25回総会 |
| * 3/14 (日) 春のクリーン多摩川 | * 1/23 (日) 新年会 |
| | * 3/20 (日) 春のクリーン多摩川 |
| 6/21 (日) 30周年記念誌「はばたきⅢ」兼 白門会ニュース43号発行 | 6/13 (日) 白門会ニュース44号発行 |